

未 来 を デ ザ イン す る
M
O
T



RITSUMEIKAN
INNOVATION
SCHOOL

立命館大学 大学院
テクノロジー・マネジメント研究科



立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科
[お問合せ]
立命館大学 OIC 独立研究科事務室(テクノロジー・マネジメント研究科事務局)
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150
TEL:072-665-2100 / E-mail:motkoho@st.ritsumei.ac.jp
<https://www.ritsumei.ac.jp/mot/>



2025年5月発行

R RITSUMEIKAN
UNIVERSITY

Ritsumeikan Innovation School

2025年度始動！

2025年から立命館 MOT は、 立命館イノベーションスクールへ。

立命館 MOT (Management of Technology) は、
技術経営とイノベーションを探究する大学院として2005年に誕生し、
修了生数は972名(前期課程912名、後期課程60名)に達し、
国内有数の技術経営大学院として成長を遂げてきました。
創立20周年となる2025年、
立命館 MOT は新カリキュラムを導入し、
「立命館イノベーションスクール」として生まれ変わりました。

研究科概要

名称	テクノロジー・マネジメント研究科 テクノロジー・マネジメント専攻	
課程	博士課程前期課程	博士課程後期課程
学位	修士(技術経営)	博士(技術経営)
入学定員	70名	5名
標準修業年限	2年	3年
キャンパス	大阪いばらきキャンパス	

All for innovation, innovation for all.

立命館大学大学院
テクノロジー・マネジメント研究科 研究科長
湊 宣明 Nobuaki MINATO



立命館イノベーションスクールが選ばれる理由 — 個性の尊重、多様性の確保、実践の重視 —

なぜ立命館イノベーションスクールが選ばれるのか。その理由は3つあると考えます。個性の尊重、多様性の確保、実践の重視です。

第一に、我々の大学院は、学生の個性を尊重し、個人がやりたいことを自由に探究できる時間と場所を提供しています。一般的な理系の大学院では教員主導で研究テーマを設定することが多いと思います。しかし、立命館イノベーションスクールでは、原則として学生個人がそれぞれの問題意識を出発点として研究テーマを選択します。そのため、この大学院で扱うテーマは最先端の技術やビジネスから人間の感性、消費行動、環境問題まで多岐にわたります。さらに、複数の教員が連携して学生の研究を支援する指導体制は2005年の設立時から変わっていません。まさに学生の個性を中心に据えた大学院といえるでしょう。

第二に、我々の大学院にはさきめて多様な学生が集まっています。理系学生と文系学生、学部進学者と社会人経験者、日本人と留学生などが、講義中にグループを形成して学び合います。バックグラウンドの異なる学生がもたらす多様な価値観と知識が融合し、互いに刺激を与え合うことで、イノベーションの源泉となる斬新な発想が生み出されます。この融合環境を維持するため、研究室毎の独立した部屋と机を用意するのではなく、あえて大部屋方式を採用し、異なる研究室の学生が机を並べて自由に交流できるよう配慮しています。さらに、修士と博士がその枠を超えて相互に研究発表する機会もあります。イノベーション研究の大家であるシュンペーターは「新結合こそが革新を生み出す」と主張しました。偶然の出会いや新しい組み合わせが自然に生まれる環境を大学院に作り出しています。

第三に、我々の大学院は、講義で理論としての知識を学ぶだけではなく、知識を実践で使う経験を重視した教育設計をしています。MOTの研究者・実務家であるクリス・フロイドは「テクノロジー(技術)とは知識そのものではなく、知識の応用化である」と述べています。つまり、知識を問題の解決に応用できるようになってこそ、テクノロジーをマネジメントしたと言えるのです。そのため、多くの講義では過去の実例を基にしたケーススタディーやグループ演習を行うほか、商品企画やサービスデザイン、新事業開発、生産管理、プロジェクトマネジメントを疑似的に体験する機会も豊富です。さらに、課題解決型長期企業実習(プラクティカム)では、今まさに企業等が実務で直面する課題に対して、チーム一丸となってソリューションを設計し、経営陣にプレゼンテーションする機会を得ることができます。イノベーションを興すための実践的なトレーニングがこの大学院にすべて揃っているといえるでしょう。

すなわち、立命館イノベーションスクールは、価値観と専門性が多様に融合する環境で、一人ひとりがイノベーションを発見し、理想の未来をデザインできる大学院として、これからも社会に貢献し続けます。大学院で学ぶことは、一定の金銭的・時間的な投資を要する、覚悟の必要な意思決定です。しかし、皆さんが大学院で過ごす時間は驚くほどのスピードで過ぎ去り、人生においてかけがえのない価値をもたらすと確信できます。技術経営学という新しい学問に出会い、熱意にあふれた同級生と学び合いながら、それぞれの人生にイノベーションを発見していただきたいと思います。

All for innovation, innovation for all.

(すべてはイノベーションのために。イノベーションは皆のために。)

Features 立命館イノベーションスクールの特徴

文理融合の開講科目

技術経営の基礎として、戦略論や組織論などの経営学、さらに統計、数理、ケーススタディなどの方法論について、幅広く学ぶことができる授業科目が提供されています。



実務経験豊富な教員・講師陣

メーカーや金融機関、コンサルティング会社などで実務を経験した教員が揃っています。また、現役の企業人を客員教授やゲストスピーカーとして招いており、業界を越えた知識や俯瞰的な視点を学ぶチャンスにあふれています。



多様な学生とのインタラクティブな講義

ワークショップやグループディスカッション、プレゼンテーションなど、インタラクティブな手法を取り入れています。社会人学生・留学生など多様なバックグラウンドを持つ学生同士が議論を戦わせます。



企業でのアクションラーニング(プラクティカム)

理論と実践の習得をめざして、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、企業が抱える課題に学生が取り組む「課題解決型長期企業実習」です。



クォーター制の採用

1年を4期に分けるクォーター制を導入しています。1科目あたり190分の講義を7回、約2ヶ月で履修できます。仕事が比較的に忙しい時期に集中して学ぶことが可能です。夏期集中やセメスター制で運用している講義もあります。

社会人学生のリスクリングを促進する時間割

社会人学生にも受講しやすい平日夜間と土曜日に講義・ゼミを多く配置します。さらに社会人学生には、オンラインでも受講可能なハイフレックス型の講義を展開することで、スムーズな履修・修了をサポートします。

6限:18時25分～20時00分 7限:20時10分～21時45分

複数指導教員体制

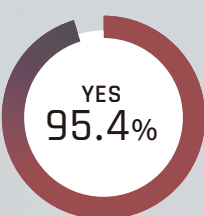
MOTの研究範囲は広範囲におよび、技術戦略、ファイナンス、知的財産、組織戦略などを複合的に考察しなければなりません。そのため、複数名の教員で指導する体制をとっています。演習指導や論文の主旨となる教員以外に、複数の教員から指導を受けることが可能です。

実際、メインとなる演習に関わらず、他の演習にも顔を出す学生が多く存在します。教員同士が連携をとり、課題解決に最適な解を見出せる体制を確保しています。積極的に多様な教員のリソースを活用してください。

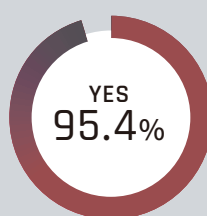
2024年修了生アンケート結果



Q 教員からの研究指導が充実していた



Q 研究や学びが充実していた



Curriculum カリキュラム(博士課程前期課程)

基礎科目

MOTの基本概念を学ぶ

■ 技術経営論Ⅰ(経営学・経済学の基礎知識) ■ 技術経営論Ⅱ(イノベーション&ものづくり)

コア科目

技術基盤企業の経営管理を学ぶ(Tech. MBA)

- 技術基盤企業の経営戦略
- 技術基盤企業のマーケティング
- 技術基盤企業の財務会計
- 技術基盤企業のファイナンス
- 技術基盤企業の経営組織論
- 技術基盤企業の人的資源管理
- 技術基盤企業のITマネジメント
- 技術基盤企業のリスクマネジメント
- 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント

理系的思考・体系的 метод論を学ぶ

- 意思決定論
- 研究デザイン論
- データアナリティクス概論
- MOTデザインプロジェクト

展開科目

MOTの先端領域を深めて専門性を確立する

イノベーション・マネジメント

- イノベーション戦略論
- 価値創出マネジメント
- サービスイノベーション

知的財産マネジメント

- 知的財産権法概論
- 知的財産戦略論
- ブランドデザイン戦略

技術戦略とR&Dマネジメント

- 研究開発戦略
- 製品開発論
- ヘルスケア・マネジメント

オペレーション・マネジメント

- バリューチェーンマネジメント
- 価値・経済性工学
- 生産イノベーションマネジメント

新しい社会価値・事業価値を創造する

フューチャープレナーシップ(未来先導科目群)

- デザイン思考とアート思考
- 未来デザイン方法論
- 未来予測とシミュレーション
- 研究開発人材のキャリアデザイン論

- アントレプレナーシップ
- モデルベースビジネス設計
- 新規事業創造論
- 企業価値創造論

実務経験を
得たい

プログラム科目

国際学会・
海外留学に
挑戦したい!

新規事業を
やりたい

未来の“挑戦”に向けた準備を行う

- プラクティカムⅠ
- プラクティカムⅡ

- Technology Management Basics
- Advanced MOT Academic English

就職活動

海外留学

国際学会

起業準備

研究指導科目

一人ひとりの“イノベーション”を学術的に探究する

- 技術経営演習Ⅰ
- 技術経営演習Ⅱ
- 技術経営研究Ⅰ
- 技術経営研究Ⅱ

国内学会

学会発表に
挑戦したい!

修士論文

Practicum

課題解決型長期企業実習「プラクティカム」

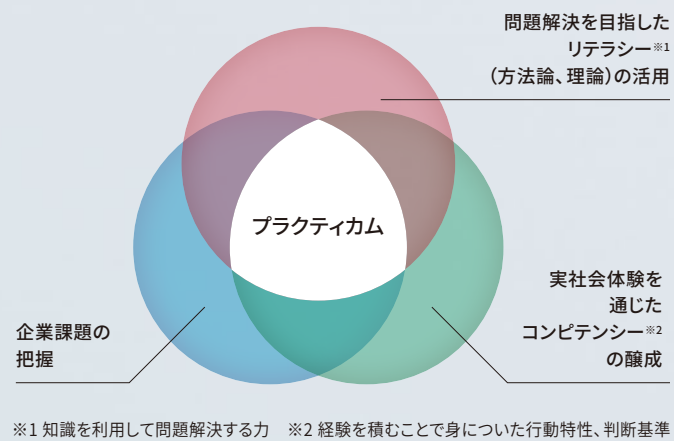
コンセプト

立命館イノベーションスクールは、「技術とビジネスを結び、新しい価値を創造する」イノベーションを主導し、新事業や新市場を創出する将来のリーダー養成を目指して、社会人学生と学部等から進学した学生が共に学んでいます。「理論と実践の習得」をめざし、当研究科ならではの実習として、インターンシップを発展させた「プラクティカム」を実施しています。その特徴は、“実習先で企業等の仕事を体験する”一般的なインターンシップとは異なり、企業が抱える課題に学生が取り組むという「課題解決型長期企業実習」です。



目指す教育効果

- 1 企業等において、どのような課題が存在し、どのように解決しようとしているかを知る。
- 2 講義で学習した理論や方法論を企業における課題解決に適用する。
- 3 企業等での課題解決の体験を論文研究にフィードバックする。



プラクティカムの特徴

課題解決型	教員の指導	長期(3ヶ月～6ヶ月)
「プラクティカム」の最大の特徴は、企業などが実際に直面している課題に講義で学習した知識を適用する「課題解決型実習」だということです。企業が解決を求める課題と学生の研究対象がマッチングすることで、はじめて成立する実習です。	立命館イノベーションスクールの教員が、課題設定、アプローチ設計、調査研究、成果の取りまとめをサポートすることで学生は高いレベルでMOTの理論や方法論の実践を体験できます。	期間が3ヶ月～6カ月と長いため、企業、ビジネスの実態をじっくりと知ることができ、実習先の担当者と深く関わる機会があります。

プラクティカム

協力企業

(過年度実績)

- JAXA (独立行政法人 宇宙航空研究開発機構)
- パナソニックコネクト(株)
- オムロン(株)
- (株)安井建築設計事務所
- 三菱電機(株)
- (株)インダ
- アビームコンサルティング(株)
- ローム(株)
- ANAホールディングス(株)
- (株)電通サイエンスジャム

※一部

プラクティカムでは、実際のビジネス環境で学びを得られます。また、現実のプロジェクトを企業と連携しながら取り組む機会が提供され、活きたプロジェクトを通じてマネジメント能力や課題解決能力を身につけることができました。異なるバックグラウンドを持つメンバーと協力し、意見の調整や役割分担を経験する中で、コミュニケーションスキルやリーダーシップの大切さを再認識しました。特定の業界知識がない状態から始め、限られた時間内で成果を出すため、効率的な情報収集が求められましたが、企業の方や担当の先生との連携によりプロジェクトを完遂することができました。今後は、プラクティカムで得た問題解決力などのスキルを活かして、将来は新しい挑戦にも柔軟に対応し活躍したいと思います。

ZHOU Xiyaoさん 博士課程前期課程(2025年3月修了)



Voice

立命館イノベーションスクールを選んだ学生の声



実務と学術、双方からのマネジメントが実現

パナソニックホールディングス株式会社 課長
博士課程前期課程
川合 有 さん

技術革新が絶えず求められる昨今において、組織のイノベーション創出を高めるマネジメントの深化のみならず、新しいアイデアを持続的に生み出し、実行に移せる自律的人材の育成が重要です。これらを理論に基づき体現したいと考えて入学を決意しました。MOTでの学びを通じて、実務でのマネジメントに学術的な視点も加わり、広い視野での判断が出来るようになると実感しています。MOTの特徴は、学生が多様性に富んでいることです。授業でのグループワークやディスカッション等の交流を通じて新しい価値観を得ることができるので、自身の考えのアップデートに役立つでしょう。

実践的なチャレンジを重ねて自分をデザインできるMOT

中央大学 商学部出身
博士課程前期課程
LIN Yixue さん

急速に変化する競争環境の中で生き残るためには、イノベーションの創出が鍵となります。そのような企業を支える創造的かつグローバルな視点を持つ人材になりたいと考え、学部での学びだけでは限界を感じてMOTへの進学を決意しました。現在は、これまでの知識をさらに深めつつ、特に消費者行動に焦点を当てた研究を進めています。新技術の導入が人々の心理にどのような影響を与えるのかという観点から分析を行い、技術と人間の関係性を探索しています。将来的には、MOTで培った知識と視点を活かし、技術と市場をつなぐ架け橋となることで、企業の競争力向上に貢献したいと考えています。

幅広い分野での研究を通じて世界で活躍する人材へ

立命館大学 生命科学部出身
博士課程前期課程
香川 晃一朗 さん

学部時代、私はあらゆる製品に化学技術が関係していることを学びました。この知識を基に価値を創造し、世界にアピールする力を身に付けたいと考え、MOTに進学しました。現在は、化学技術への消費者意識と購買行動の関連性について研究しています。将来は、MOTで学んだ知識を活かし、文系・理系の枠組みに囚われず、さまざまな場面で活躍できる人材になりたいと思っています。MOTの学生は様々な国籍や年齢、理系・文系出身者など、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まっています。グループワークやディスカッションを通じて、様々な価値観や考え方に触れることができ、自らの価値観や知見を広げることができます。刺激的な学びの場として、MOTをお勧めしたいと思います。

学部での学びをさらに深めて自身のキャリアを開拓

立命館大学 情報理工学部出身
博士課程前期課程
古村 直輝 さん

専門性×専門性=より希少な専門性。この考えのもと、進学を決意しました。数学のベン図をイメージするとわかりやすいと思います。私の場合、コンピュータサイエンス∩MOTとなります。希少な専門性を身につけることで、市場価値の高い人材になれると考えました。現在、研究している内容も学部で深めた人工知能に関する社会実装のテーマに取り組んでいます。このようなテーマを取り扱うことで、人工知能という技術に対して、視点、視座、視野を高めて向き合うことができるように思います。将来的にはこの2つの専門性を軸に、様々なスキルを掛け合わせることで、自分ならではのモノの見方で世の中の問題解決ができるキャリアを歩みたいと考えています。

イノベーション創出と市場での競争力を高める

立命館アジア太平洋大学 国際経営学部出身
博士課程後期課程
WU Dongjian さん

将来は、実社会における経営課題の解決に寄与できるコンサルタントになりたいと思い、MOTに進学しました。研究科では製品やサービスを商品化・産業化するまでのプロセスに関する学問、すなわちイノベーション創出の仕組みを学んでいます。身に付けた知識と能力を駆使することで、将来は、独自性・新規性の高いイノベーションを生み、市場での競争力を図るような会社の一助になりたいと考えています。MOTでは、優しくて親切な先生方に出会えました。研究に詳しくない新入生の時から、興味を持って質問したことに対して、親切に丁寧に指導してくださいました。学生が自由で楽しく研究を行える環境であることから、MOT研究科を皆さんに勧めたいと思います。

能動的な学びを通じてマネジメントに求められる知識を修得

ダイキン工業株式会社 主任技師
博士課程後期課程
藤本 慎一郎 さん

私は新卒で就職後、エンジニアとして働いてきましたが、40歳前後で仕事が徐々にマネジメントに変わるのを機に新たな専門を身に着けるため、MOTに入学しました。研究はオープンイノベーションを対象に、仕事の中で感じた疑問や課題の解決を目指しています。MOTの博士課程前期課程を修了後、引き続き後期課程で研究を行っています。研究を進める上では自ら新たな課題を見つけ、解決のためにMOTをより深く学ぶと同時に、経済学、心理学、統計学など幅広い知識が必要となり、より能動的な学びが求められます。その様な経験が仕事の上で未知の課題への挑戦と対応力、解決力に活きています。

Faculty 実務経験豊富な教員・講師陣

青山 敦 Atsushi AOYAMA 教授／Ph.D. (パデュー大学) (株)DataVision 代表取締役

【研究分野】 研究開発マネジメント、イノベーションマネジメント、価値の探究と創出、デジタルトランスフォーメーション、リスクマネジメント

【経歴】 三菱総合研究所、英国ロンドン大学インペリアルカレッジ研究員、東京工業大学資源化学研究所助教授

ICTの進歩には目を見張るものがあり、画像／音声／テキスト／バイタルデータ／センサーデータなど多様な情報を大量／高速／安価に距離の制限なく人や機械から収集し複雑な処理を行い、人や機械にフィードバックすることが可能になりつつあります。ICTの特徴を活かし、イノベーションをシステムティックに創出しビジネスを持続可能にする方法を研究しています。ICTの社会受容性研究も行っています。たとえば、ICT活用介護サービスが事業者／介護者／高齢者／家族／地域社会に受け入れられる条件を解明しようとしています。ICTを活用してビジネスマネジメントそのものを革新する研究も行っています。計算機による自然言語処理によって企業内に存在する膨大な情報資源を高度に活用し、ICTと行動科学を組み合わせることで、企業を良い方向に誘導できると考えています。

枝川 義邦 Yoshikuni EDAGAWA 教授／博士(薬学、東京大学)、経営学修士(専門職、早稲田大学)

【研究分野】 人を中心とした経営システム、脳神経科学、マーケティング、人材育成、組織開発、新規事業開発

【経歴】 名古屋大学助手、早稲田大学准教授・教授、カリフォルニア大学 ロサンジェルス校客員研究員等

経営資源における「ひと」の役割は、ますます重みを増しています。他の経営資源を活かすことからイノベーションの創出を支えることまで、あらゆる場面で人の活躍が望まれます。近年では、脳の働きを可視化する技術の進展が著しく、私たちの日常生活や仕事をする多くの場面で脳の活動性を計測し、その結果を解釈できるようになってきました。このような新しい技術を活用し、経営学や経営工学、脳神経科学・生理学、認知科学など、歴史を重ねる複数の研究分野を融合させた多層的なアプローチをすることで、世の中をシステムとして捉え、その一場面を解釈し、社会に活かすための研究をしています。様々な分野への興味を持ち、それらを融合させ、ものごとの解明や実社会での展開について学術的なアプローチを進めることに興味をお持ちの方を歓迎しています。

小田 哲明 Tetsuaki ODA 教授／博士(医学、東京慈恵会医科大学)、博士(工学、東京大学)、弁理士

【研究分野】 知財戦略、知財マネジメント、医療福祉

【経歴】 フィンガン法律事務所(米国)、スタンフォード大学 APARC 客員研究員、大阪大学工学研究科特任准教授、東京大学未来ビジョン研究センター特任准教授

専門分野は、知財マネジメント、地域ブランド、ウェル・エイジングです。「知的財産(特許)を活用した経営戦略」として、企業の知的財産活動について研究しています。①ケーススタディを中心とした特許・デザイン・ブランド戦略分析、②データ解析による知的財産評価、③地域ブランドの活性化、④産学連携などについて研究しています。知的財産にはデザイン・ブランドも含まれ、とても身近なものです。また、近年はウェル・エイジングの研究にも取り組んでいます。企業経営や高齢化社会において健康維持を図ることは、人生100年時代の到来により注目されている分野です。企業の戦略や健康データを分析できる柔軟かつ学習熱心な学生、企業へのインタビューを行える積極的な学生を希望します。

蔵本 薫 Kaoru KURAMOTO 准教授／博士(経営工学、早稲田大学)

【研究分野】 経営工学、統計科学、知能情報学、人的資源管理

【経歴】 早稲田大学創造理工学部経営システム工学科助手、青山学院大学理工学部経営システム工学科助教

技術と経営の架け橋として、企業や社会の課題を実証的に分析し、戦略的意思決定の支援を行う研究を展開しています。特に、AIやIoT、ビッグデータ解析といった先端技術を活用し、企業の経営情報(POSデータ、広告データ、テキストデータ等)を用いたマーケティング分析研究が最近の研究テーマです。取り扱いが容易な形で記述された数理モデル上で理論をどう展開するか、と同時に現実問題や課題を如何にうまく整理・モデル化して解決へと結び付けるか、その双方が必要と考え研究を行います。学生には、理論と実践を融合させた学際的な教育を提供し、実世界の課題に対応できる専門性とスキルを育成します。最新のツールを用いたデータ解析の経験を通じ、研究成果を実社会で活かす道を切り開いていきましょう。特に論理思考力と主体性のある学生を希望します。

黄 巍 Wei HUANG 准教授／博士(経営学、東京大学)

【研究分野】 製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営

【経歴】 東京大学経済学研究科特任助教、特任研究員

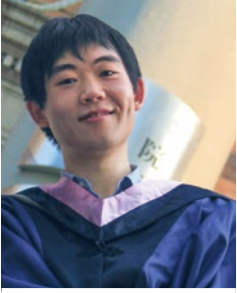
研究分野は製品開発論、イノベーション・マネジメント、ものづくり経営です。これまでは継続的な開発活動の特徴とする製品・産業における効果的な開発パターンについて調査・研究を進めてきました。現在はデータ(開発プロジェクトデータと産業データ)解析によるゲーム産業の開発活動に関する実証研究、ICTを活用した組織課題の可視化、ものづくり現場データの集約・連携について研究しています。当研究室は事例研究、統計分析及びマルチエージェント・シミュレーションなどの手法を用いて技術経営に関する研究を幅広く行っています。論理的思考能力及び実証研究能力の構築に粘り強く取り組み、主体的に学ぶ学生を希望します。

澤口 学 Manabu SAWAGUCHI 教授／博士(工学、早稲田大学)

【研究分野】 次世代商品企画マネジメント、イノベーションマネジメント、デザイン思考型リスクマネジメント、価値創造工学メソッド研究

【経歴】 鉄鋼系大手商社、産業能率大学教授、早稲田大学創造理工学研究科経営デザイン専攻教授、東北大学工学研究科客員教授
澤口研では「社会マクロ環境と技術進化の最適化に基づく次世代商品企画」や「新興国と日本の協同による持続可能な価値創造工学メソッドの研究」を主な研究テーマにしております。これらは常に企業との連携も視野に入れて理論と実践の両立を目指します。また本格的なAI時代を見据えて「AIとの協同を意識しつつ」働きがい”の維持・向上が可能なモノ・コトづくりアプローチ」や「逆転発想による創造的リスクマネジメント」、また生成AIの台頭する現在社会を意識した「“不便益(Benefit of inconvenient)”概念に基づくユニークなデザインメソッド」の研究にも挑戦しております。これらの研究に興味を抱いた学生は大いに歓迎いたします。

最近の著書:「不便益の実装(共著)」「近代科学者 Digital)」、「はじめての企画・開発メソッド(単著)」「(同友館)等



田中 邦明 Kuniaki TANAKA 教授／博士(工学、法政大学)、経営学修士(専門職、同志社大学)

【研究分野】 生産戦略、生産システム、サプライチェーンマネジメント、製造基幹人材育成

【経歴】 オムロン(株)ものづくり革新本部生産技術センタ長、オムロングループ海外子会社(Malaysia・China)、(一財)Lean MONOZUKURI Network Japan

グローバルでの急激な環境変化は製造企業に大きな変革を求めています。日本の製造企業が再びグローバル競争力を獲得するには、これまで培ってきた現場中心のものづくり競争能力を磨き続けることに加えて、IoT/ロボット/AIなどの新技術を取込んだスマートファクトリーに代表される新しいものづくりシステムの構築が解決策の一つになります。日本のみならず、中国、タイ、インドネシアなどの製造企業との協業を通じて、実際の具体的課題を踏まえながら、革新的コンセプトの提言や方策に関する研究を行います。ものづくりに興味や課題認識を持っている皆さん、革新的なものづくりコンセプトを構想する力を養い、その実現に向けたマネジメント力や人間力を磨きあげることで、ものづくりを牽引するグローバル人材としての活躍を目指していきましょう。

長平 彰夫 Akio NAGAHIRA 教授／博士(経営学、東北大学)

【研究分野】 研究開発マネジメント、イノベーション・マネジメント、リスク・マネジメント、知的財産マネジメント

【経歴】 北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)、通商産業省(現経済産業省)資源エネルギー庁、東北大学大学院教授

北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)を経て、東北大学大学院工学研究科の教授に就任し、2019年4月から立命館大学教授に。技術経営分野の中で、企業の研究開発マネジメント、とりわけ新製品・新サービスプロセスマネジメントを研究し、新製品・新サービス開発の前段階(ファジイ・フロント・エンド)が新製品・新サービスの成功に大きく寄与することを2008年の国際学術誌において世界で初めて明らかにしました。また、特許データを用いた経済分析において、従来の被引用数だけでなく、属性として、特許異議申立、無効審判の数、IPC分類数、発明者数、外国出願の有無、の複数の属性を用いた属性統合指標が有効であることを実証し、研究・イノベーション学会から最優秀論文賞を受賞しています。定量解析にぜひ興味をもっていただきたいと思います。

名取 隆 Takashi NATORI 教授／博士(工学、東北大学)

【研究分野】 技術経営、中堅中小・ベンチャー企業論、技術マーケティング、新製品・新事業開発、オープンイノベーション、競争戦略、中小企業支援育成政策

【経歴】 日本開発銀行(現日本政策投資銀行)

私は中堅中小・ベンチャー企業を対象に、イノベーション創出(新製品・新事業開発、オープンイノベーションを含む)、技術マーケティングなどを研究してきました。金融機関に約30年勤務し金融の実務知識と多くの業界の審査・調査経験があるため多様なテーマの指導が可能です。名取ゼミの学生は研究テーマを自由に選択し、分野も多方面に亘り、マーケティング、イノベーションの普及、新製品・新事業開発の分野が従来は多く、近年ではスマホアプリなどのネットビジネス、ゲーム関連のテーマが増えていきます。研究方法は、アンケートデータ等の統計分析による定量分析と、事例分析等による定性分析のどちらも指導します。皆さんにはユニークで挑戦的な研究を期待しています。なお近年のトピックとして、名取ゼミから数社のスタートアップも輩出しています。

湊 宣明 Nobuaki MINATO 教授／博士(システムエンジニアリング学、慶應義塾大学)

【研究分野】 技術経営学、デザイン科学、システム・ダイナミクス、宇宙・航空イノベーション

【経歴】 宇宙航空研究開発機構、慶應義塾大学助教、特任准教授、シンガポール国立大学客員研究員

宇宙航空研究開発機構(JAXA)での勤務を経て、大学教員に。専門は航空宇宙管理とシステム工学で、宇宙・航空分野のシステム設計やマネジメント理論を応用し、技術を基盤としたイノベーションの創出、新製品開発と普及戦略、社会技術システムの持続的発展について研究しています。特に、ビジネス生態系のバランスを見極めながら、製品やサービスの最適設計、将来予測、長期的な影響評価を行い、シミュレーションに基づいた意思決定の高度化に取り組んでいます。また、NASAの宇宙飛行士訓練を応用した遠隔チーム行動トレーニングを開発し、チームマネジメントや意思決定能力の向上を支援することで、次世代のリーダー育成にも力を注いでいます。





ゲストスピーカー

現場の第一線で活躍する実務家や国内外の一流企業および最先端研究機関から招聘しています。(過年度実績)

- 梶野 透 B-R サーティワン アイスクリーム株式会社 管理本部 SCM推進ディレクター
- 長江 豊 オムロン京都太陽株式会社 代表取締役社長
- 有馬 牧子 昭和大学 医学部医学教育学講座 准教授
- 三原 祐治 株式会社創造性工学研究所 代表取締役
- 熊谷 明士 (元)株式会社デンソー
- 志村 武彦 株式会社電通サイエンスジャム 代表取締役社長 CEO
- 米川 聡 国立大学法人鳥取大学 研究推進機構研究戦略本部(米子) 特命准教授
- 倉岡 清志 日鉄ソリューションズ株式会社 ITS & E 事業本部 /DM 事業部 /DENG GL
- 石川 浩 持田製薬株式会社 事業開発本部 知財担当理事
- 三原 康司 早稲田大学 理工学術院 教授

Information

主な内定先・就職先一覧

※過去の修了生を含む

旭化成(株)

アビームコンサルティング(株)

(株)イシダ

EYストラテジー・アンド・コンサルティング(株)

NTTコミュニケーションズ(株)

オムロン(株)

キャノン(株)

キュービー(株)

(株)キーエンス

経済産業省

KDDI(株)

塩野義製薬(株)

(株)資生堂

(株)島津製作所

シャープ(株)

ジョンソン・エンド・ジョンソングループ

Sky(株)

住友電気工業(株)

(株)セブーン・イレブン・ジャパン

ソフトバンク(株)

TIS(株)

東京ガス(株)

東京電力ホールディングス(株)

東芝デバイス&ストレージ(株)

トヨタ自動車(株)

日亜化学工業(株)

ニチコン(株)

日本アイ・ビー・エム(株)

日本タタ・コンサルタンシー・サービス(株)

日本通運(株)

日本電気(株)

(株)野村総合研究所

(株)博報堂プロダクツ

パナソニックコネクト(株)

(株)日立製作所

富士通(株)

(株)船井総合研究所

(株)ベイカレント・コンサルティング

本田技研工業(株)

三菱商事(株)

三菱電機(株)

(株)三菱UFJ銀行

三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)

(株)村田製作所

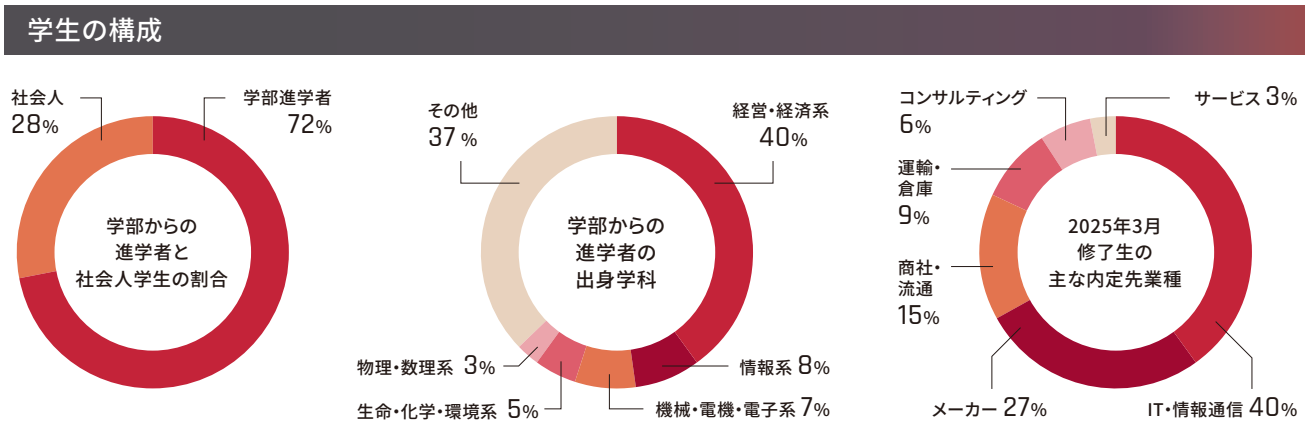
LINEヤフー(株)

ヤマハ発動機(株)

ユニ・チャーム(株)

楽天(株)

ローム(株)



奨学金・研究助成制度

(詳細は入学試験要項)

1 立命館大学独自の奨学金・研究助成

1年次対象成績優秀者奨学金、2年次対象成績優秀者奨学金、学生会奨学金、英語論文投稿支援補助金、ティーチング・アシスタント(TA)等

2 学外機関による奨学金・支援制度等

日本学生支援機構大学院奨学金、民間財団・地方公共団体奨学金、日本学術振興会特別研究員制度等

RIMOT(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科校友会)

RIMOT(立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科校友会)が、修了生ばかりでなく在学生とともに学ぶことができる「知識創造の場」を提供します。900名以上のメンバーを持つRIMOTのネットワークは、必ずあなたに価値をもたらします。

修了後は“Re”MOTできます。

今井 雄基 さん

2013年3月博士課程前期課程修了／ネットワンシステムズ株式会社(ネットワンパートナーズ株式会社に出自)

RIMOTは立命館MOTの修了生を中心とした校友会組織です。技術経営を共に学んだ同窓生に対して、各種イベント(勉強会・ワークショップ・懇親会・同窓会等)を企画・運営しています。私は学部卒業後すぐに立命館MOTへ進学しましたが、その価値を実感したのは社会人になってからでした。RIMOTの活動に参画して10年以上経ちますが、RIMOTメンバーを始め、現役学生や教授、外部講師の方々など、MOTを共通のキーワードとしながらも、様々な価値観を持った人との出会いが私の社会人人生を支えてくれています。修了後の活躍の舞台は全国・世界へと広がりますが、貴方がMOTに触れる機会はより一層増えていくことでしょう。RIMOTはこれからもMOTを究めている場所を提供していきます。



入学試験情報

博士課程前期課程の入学時期は年2回(4月、9月)、2025年度に入学試験は3回実施します。
学期の始まりが9月の留学生の方や、転勤の可能性などで直前まで出願を決められない社会人の方が9月入学試験を受験されています。
博士課程後期課程の入学時期は年2回(4月、9月)、入学試験は日本語基準、英語基準、それぞれ年2回ずつ実施します。

博士課程前期課程(修士課程)

[入学定員] 70名 [標準修業年限] 2年 [入学時期] 4月・9月 [学位名称] 修士(技術経営)

2025年9月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
7月	一般/社会人/外国人留学生(RJ方式) APU特別受入	2025年5月29日(木)～ 6月12日(木)	7月6日(日)	7月17日(木)

2026年4月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
7月	学内進学/一般/社会人 外国人留学生(RJ方式)/飛び級/APU特別受入	2025年5月29日(木) ～6月12日(木)	7月6日(日)	7月17日(木)
11月	学内進学/一般/社会人 外国人留学生(RJ方式)/飛び級/APU特別受入	2025年10月9日(木) ～10月23日(木)	11月16日(日)	12月4日(木)
2月	学内進学/一般/社会人 外国人留学生(RJ方式)/飛び級/APU特別受入 理工2年次転入学/情報理工2年次転入学 生命科学2年次転入学	2026年1月8日(木) ～1月22日(木)	2月14日(土)	2月26日(木)

博士課程後期課程(博士課程)

[入学定員] 5名 [標準修業年限] 3年 [入学時期] 4月・9月 [学位名称] 博士(技術経営)

2025年9月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
6月	一般(英語基準)	2025年4月17日(木)～5月8日(木)	別途連絡	6月19日(木)
7月	一般(日本語基準)	2025年5月29日(木)～6月12日(木)	7月6日(日)	7月17日(木)

2026年4月入学 入学試験日程

入試実施月	入試方式	出願	試験	合格発表
11月	一般(英語基準)	2025年10月9日(木)～10月23日(木)	別途連絡	12月4日(木)
2月	一般(日本語基準)	2026年1月8日(木)～1月22日(木)	2月14日(土)	2月26日(木)

選考方法

※詳細は入学試験要項でご確認ください。

博士課程前期課程

[一般・飛び級・外国人留学生(RJ方式)]
小論文、面接
[学内進学・社会人・APU・転入学]
書類選考、面接

博士課程後期課程

[一般(日本語基準)]
書類選考、面接試験、論文試験(修士論文あるいはそれと同等の著作物、および研究計画書をもって論文試験にあて、面接試験で試問を実施)
[一般(英語基準)]
書類選考、面接試験または電話等でのインタビュー(英語で実施)